

HUB - IBARAKI ART PROJECT 2024 開催のご案内

HUB-IBARAKI ART PROJECT

主催が茨木市文化振興財団に移管されて初のプロジェクトとなる「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2024」では、滋賀県在住の美術家・井上唯を招聘し、春から冬にかけて茨木市の山間部を中心にリサーチを行ってまいりました。

リサーチを通して浮かび上がった「循環」というテーマを来場者と共に考えるアートプロジェクトとして、2025年2月22日より展覧会と複数の関連プログラムを開催いたします。

また、展覧会終了翌日の3月16日（日）には、出展作品の一部と作品制作の過程で生じた素材をすべて土に還す「とんど焼き」を茨木市内で実施します。この「とんど焼き」では、作品が土に還っていく過程そのものも作品の一部として捉えています。

本プロジェクトの広報および取材へのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



<デザイン：本村信裕 nobuhiro motomura (STUDIO GIGI)>

[HUB IBARAKI ART PROJECT2024 概要]

井上唯 『循環とは？土と水。人と開発。土地に生きるということ。』

会期：2025年2月22日(土)-3月15日(土)金・土・日曜のみ開催 ※(2月24日(月・休)は開催)

時間：12:00 - 18:00 (最終日3月15日は15:00終了)

3月16日(日)には作品を燃やし土に還す「とんど焼き」を開催

会場：茨木市市民総合センター[クリエイトセンター]1階 喫茶・食堂

〒567-0888 大阪府茨木市駅前四丁目6番16号

入場無料

内覧会：プレス及び関係者のための内覧会を2月21日(金)12時から開催します。
参加希望の方は、右記QRコードからお申込みください。



HUB-IBARAKI ART PROJECT について

茨木市の文化芸術振興事業として 2013 年に始動した「HUB-IBARAKI ART PROJECT」は、茨木市に暮らす人々が、現代アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの本質的な魅力である「表現の豊かさ／美しさ」「探求心」に触れ、その体験をそれぞれの日常の中へ還元していくことをめざしたアートプロジェクトです。

2023 年度、茨木市から茨木市文化振興財団に移管され、体制をリニューアルした本事業では、プロジェクトタイトルに含まれる「HUB」の意味 / 役割についても問い直し、新しい表現・活動が生み出される創造活動拠点の形成を射程に入れて事業展開していくことを 23 年度以降の課題の一つとしています。現代アートを軸として、異なる領域とのネットワークや市民との多様な関わりをつくっていくこと、まだ価値の定まっていない未知なる表現活動の実験の場を創出することで「未来につながる『文化のまち』いばらき」（茨木市の文化振興ビジョン（第 2 期））を共創していくことをめざします。

2024 年度よりリニューアルした「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、ディレクター内田千恵のキュレーションのもと、1 名のアーティストを招聘し、先駆的なアートプロジェクトに取り組んでいます。

ディレクターステートメント 内田千恵

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2024」では、滋賀県在住の美術家、井上唯を招聘し、茨木市の山間部や自然循環に関わる事象に焦点を当て、春から冬にかけて共にリサーチ活動を展開してきました。井上は、時間の流れと共に少しずつ姿を変えてきたこの土地で、かつてここに存在したもの、大切に育まれたもの、いつの間にか失われたもの、そして、誰もが忘れてしまった記憶に出会い、向き合ってきました。

リサーチを進める中で、豊かな自然が残る山間部の風景の中にも、突如開発途中の土地や幹線道路、高速道路、ダムが混在し、複雑な風景が広がっていることに気づかされます。世界でも見られる都市の発展と自然環境の共存は可能なのか—どのようにわたしたちに影響を与えているかを目の当たりにし、井上は「循環」という言葉の意味や、その背後に潜む課題や矛盾に気づき始めました。こうした現実と向き合う中で、彼女にとってこの地から、どのように思いをめぐらせ、どのように表現するのかが、このプロジェクトの根幹となっています。

今回の展覧会では、茨木の自然と地域の方々から受け継いだ素材から生まれた作品を発表するほか、ワークショップや関連イベントを通して、彼女が見出した「循環」についての問いを参加者と共有し、対話する場とします。

アーティストステートメント 井上唯

表土に葛が覆い茂っていた数百万年前の大阪層群の土。ある人が木を植え続け、その想いで開発をまぬがれた椿山。閉じられた名水の井戸。山からニョキッと生えているかの高速道路。削られた山の麓の青緑色した水溜まりを見て呟いた“山の涙”。採石場で出くわした美しい角を持つ雄鹿と、ダイナミックに走り去った真っ黒で毛むくじらの大きな獣。身体の重力が歪む気がした出来立てのダム。うごめき続ける造成地のフェンス脇に生えるヨウシュヤマゴボウ。無機物をも溶かす高性能な溶融炉。雨乞い信仰が行われていた神社の境内で見つけた竜の角みたいな大きな折れ枝。川の合流地点でひとりせつせと石を動かし続けているというおじさん。

種のように散らばった出来事に出会いながら、人間が土地に手を入れることで植生や地形、そして風景が変わり続けてきたことが見えてきました。清い水の湧くところに住み着き、田んぼのために溜池を掘りつつその土を盛って古墳を作った逸話は、造成や開発の始まりを想像させるし、土を焼くことは、“土に還らない”モノづくりの始まりを想起させます。そして、少しずつ私たちの身体感覚から離れた規模や速度へと発展し、循環しないモノや仕組みが当たり前になっていきました。

都市化や利便性と引き換えに失ってきたこと、まだ残っているもの。私たちの見えないところで進行している様々なものごとに目を向け、分からないことや出来ないことにぶつかりながら、それでも気持ちいいと思う方向に向かって模索し、人間が土地に生きるとはどういうことなのかを、この土地を知ることを通じて、立ち止まって考え直す機会にできればと思います。

井上唯 Yui Inoue

1983年愛知県生まれ、滋賀県在住。2005年愛知教育大学 教育学部 造形文化コース卒業。2007年金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 染織コース修了。近年の展覧会 / プロジェクトに、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2024：アケヤマー秋山郷立大赤沢小学校一」（新潟）「井上唯 / ITONAMI: 風景に向かって旗をかかげる」ギャラリーノイエ（長野, 2023年）、「北陸工芸の祭典：GO FOR KOGEI 2022」那谷寺（石川）「国際芸術祭あいち 2022: “ほの国”を知るためのプロジェクト」（愛知, 2021-2022年）、「Soft Territory かかわりのあわい」滋賀県立美術館（2021年）など。

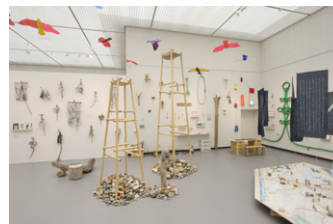
< 過去の作品 >



《ヤマノクチ》
2024
Photo Kioku Keizo



《風景に向かって旗をかかげる》
2023
photo Takahiro Ozawa



《ほの国を知るためのプロジェクト》
2022



《この土地に生きる》
2019

< リサーチの様子 >



協力：安威川上流漁業共同組合、アグリファーム佐保、市原野町自治会（滋賀県）、茨木市環境衛生センター、疣水磯良神社、追手門学院大学、里山センター、椿山延寿林、鳥羽自治会、鳥羽とんど焼き保存会、豊川地区まちづくり協議会、NPO 法人北摂やままち倶楽部、ibabun 手芸部、サポーターのみなさま

HUB-IBARAKI ART PROJECT

ディレクター：内田千恵

アドバイザー：雨森 信

取材のご依頼・広報に関するお問い合わせは、下記までお気軽にお問い合わせください。
関連プログラムに関する第2弾プレスリリースは、2月上旬に発表を予定しております。

< お問合せ・主催 >

公益財団法人 茨木市文化振興財団

〒567-0088 大阪府茨木市駅前四丁目6番16号

茨木市市民総合センター（クリエイトセンター）1階 文化事業係

公式サイト：<https://hub-ibaraki-art.com/>

TEL：072-625-3055（10:00~17:00）E-mail：info@hub-ibaraki-art.com

FB：@HUBIBARAKIARTPROJECT X：@HubIbaraki Instagram：@hubibaraki_art